

抑制トマト「天寿1号」「天寿5号」の特性

県農業試験場八代支場園芸部（現、農研センター農産園芸研究所野菜部八代研究室）

研究のねらい

抑制トマトの栽培では、一般に、年内価格が高く、作付体系に半促成メロンが組込まれているため、早生性・収量性・品質を重視した品種の導入がなされている。

現在の品種「天寿A」及び「天寿B」では、スジグサレ果の発生が極めて多く、また、早生性にも劣る欠点があるので、スジグサレ果の発生が少なく、収量性・品質に優れる品種「天寿1号」と「天寿5号」を選定した。

研究の成果

天寿1号

1. 多収性で、特に早期収量（年内収量）が多く、商品果率も高い。果実は平均200gを越す大果で、硬さはやや硬い程度である。果先はやや尖る傾向にあり、果色は薄い赤桃色を呈し、糖度はやや低い。
2. 不良果としては、変形果、空洞果、チャック果等がやや多いが、従来の「天寿A」に比し、スジグサレ果の発生は極めて少ない。
3. 早生性は「天寿B」と同程度である。

天寿5号

1. 着果数が多く多収性で、早期収量が多く、商品果率も高い。果実は平均170g内外の中玉で硬い。果先は尖り、果色は「天寿1号」より濃い赤桃色を呈し、糖度は「天寿1号」よりは高い傾向にある。
2. 不良果としては、変形果、空洞果が多いが、スジグサレ果の発生は極めて少ない。小果（90g以下）が多いので肥培管理に留意する必要がある。
3. 早生性は「天寿B」と同程度である。

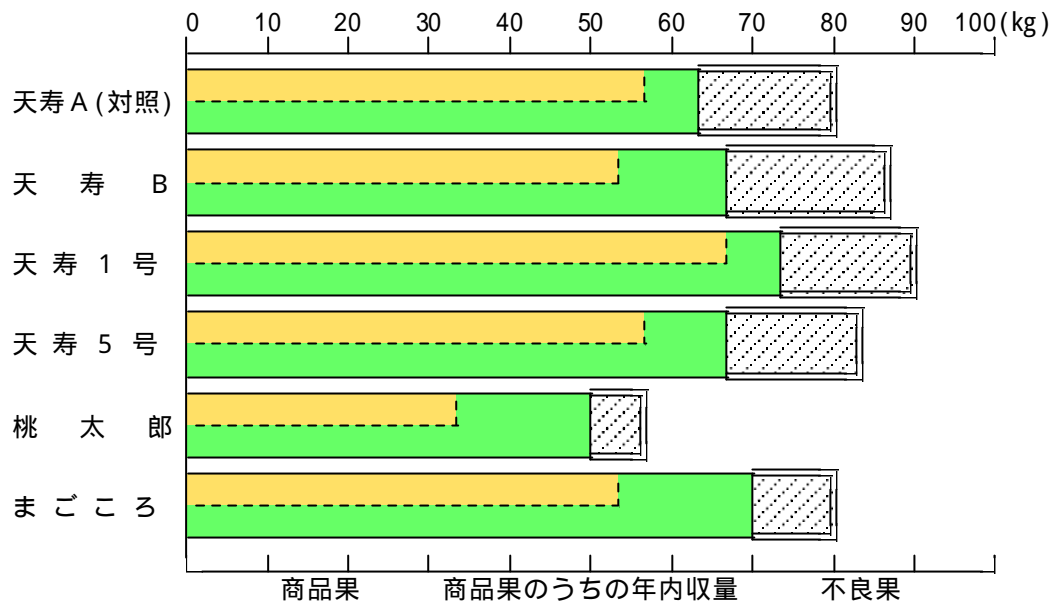


図 1 20株当たり収量



写真 1 天寿 1 号



写真 2 天寿 5 号